

■■インフルエンザ対策は今年も忘れずに■■

新型インフルエンザの猛威が世界を席卷したのは記憶に新しい。今のところ今年の冬はそれに類するものの流行は報告されていないが、だからといって毎年流行する季節性のインフルエンザがなくなるわけではなく、コミケットの会場がその理想的な感染源であることに変わりはない。

去年が特別、なのではなく、毎冬当然のこととしてインフルエンザ対策を考えることが大切なのだ。

——■頑張って感染を拡げないこと！■——

まずはインフルエンザは立派なウイルス性感染症であり、単なる風邪とは全く違ったものであることを正しく理解しなくてはならない。潜伏期間があり、風邪と初期の自覚症状が似ているためについ『ちょっと風邪気味みたいだけど頑張れる』と思ってしまいがちだが、『頑張れば行けそうだけど、インフルエンザだったら他の参加者を大勢巻き込むことになるからやめておこう』という判断が下せる参加者であってほしい。

01 体調が怪しい時は参加を見合わせる

いくら気力があっても年2回のコミケットでも、少なくとも前夜の時点で熱がある、咳やくしゃみが激しい、悪寒がするといった自覚症状があるなら、思い切って参加を見合わせよう。無理してでかけて多くの参加者やスタッフに迷惑と感染の危険を及ぼすのは参加者としてしてはならない行為だ。

もちろん、会期中でも体調不良や激しい疲労を感じたら無理をせずに（閉会時間前後は交通機関がどっと混み合うのでなるべく早く）帰宅する判断を下そう。

02 時には厳しく説得するのも同行者の責任

もし同行者が明らかに体調を崩している様子なら、例え会場に到着していても帰宅するよう責任を持って説得してほしい。会場で倒れても救護室では十分なケアを受けることができないので、結局一日を棒に振った拳句にさらに病状を悪化させてしまうようなことにもなりかねないのだ。

03 各自での自衛策も必須。

会場内や会場へアクセスする交通機関の車内等人が密集している場所ではどこにキャリアー（保菌者）が居てもおかしくない。基本的には自衛するしかないなので、使い捨てのものでもマスクの用意はしておこう。

また、インフルエンザウイルスは湿度に弱いので口内や喉を乾燥させないことが一番の予防になる。こまめな水分補給を心がけ、アメやガムなども活用して喉を乾燥から守ろう。また、トイレに行った際には必ずうがいをしよう心がけよう。

04 意識してうがい&手洗いを実行！

もちろん手洗いも重要だ。物を食べる前には必ず手を洗う、という幼稚園以来の習慣を改めて履行しよう。とはいえいつでもどこでも手が洗えるとは限らないので、入場待機列の中で朝食を、というような場合に備えてウェットティッシュや携帯用の手指除菌スプレーなどを用意しておくとうまいだろう。

特にサークル参加者はお金に触った後にはこまめに手指を清潔にするよう心がけよう。



●冬のナマ足怪我の元

冬は皮膚が乾燥しやすく、また、気温が低いと皮膚表面の弾力が低下しがちになる。すると、通りすがりに他の参加者のバッグやその金具・留具などがごく軽く引っ掛かっただけで思わぬ怪我をすることがある。

周囲の参加者も自分が厚着のために、夏に比べて通路の混雑が激しく、同時に周囲との接触に対する注意力（抵抗とも言う）が低下しがちになるので、接触によるアクシデントが頻発する。特に女性陣はコスプレやスカートを着用する場合でもその下にはズボンやストッキング、タイツなどを履いて防寒とケガの防止を心がけてほしい。

また、そういった不測のケガに備え、絆創膏類は必ず携行しよう。